

以上です。

○議長（作元 義文君） 1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） 今日はほとんど同じような意見でありがたいなと思っております。

さて、最後に、昨今、消費税や社会保障費削減等の、選挙にとってはマイナスになるような政策が、それこそ待ったなしの状況になっています。これらの政策のように、市民から批判があっても執行する必要がある事業については、安易に先送りするのではなく、トップの決断と実行が求められます。

つまり、よりよい市政の実現には、選挙受けをねらった大衆迎合政治、いわゆるポピュリズムからの脱却が必要です。従来の選挙では、利益をいかに分配するかが争点でした。しかし、右肩上がりの経済状況が終わって久しい今日では、負担をどのように分担していくかが争点に変わり始めています。

私は、自身の市議会選挙前に配布したこの「対馬未来予想図、近未来予想図」というチラシで、「負担と達成感を分かち合う覚悟が必要です」と市民に訴えて初当選させていただきました。多くの市民の幸福を達成するために、不利益をこうむる方々に対して、不利益を負担することを納得いただける説明を果たすこと、さらには、負担を軽減する手当てを提示し、なおかつ実行することが求められます。そのことに関しては、午後から松本議員が巖原市街地の空洞化対策等を質問されるようですから、答弁を期待して聞きたいと思います。

時間10分余りましたが、以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、1番、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩のため1時から開会いたします。

午前11時51分休憩

午後1時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 市民の声を活かす、市民の市政をモットーに頑張っております10番議員の小宮教義でございます。私の持ち時間は50分でございますので、よろしく願いをいたします。

どうでしょうか、この世界の動き、ヨーロッパでは大変なことが起きておるようでございます。ユーロ圏のギリシャ、イタリアなどの国が破産をするんじゃないか、倒産するんじゃないかと、債務不履行、デフォルトに陥っている状況でございます。その責任をとるがごとくに、各首相た

ちが辞職をしております。これは2008年のリーマン・ショック以来の大変な危機に直面をしておる状況でございます。

この我が日本はどうか、また、これも大変なことが発生をしております。さきの11月の27日、まさに大阪秋の陣、大阪府知事選と大阪市長選のダブル選挙がございました。2期目を目指す現職の平松現市長と大阪維新の会が推す前知事の橋下候補の実質的な一騎打ちでございました。そして橋下候補が現職を20万票以上という差で圧勝をしたわけでございます。

よく考えてみますと、なぜ圧勝をしたのかと考えてみますと、この現職の市長、平松市長ですね、この方はその市自体のビジョンがなかなか見えない、曇ってなかなか見えない。それに対して橋下候補は、大阪都構想というものを立ち上げて、論点が非常にはっきりしている。やはりそういう点から考えると、平松現市長の惨敗は当然のことだというふうに思われます。

そして、この当選された橋下、今市長じゃございませんけども、市長になられる方は、この対馬市とはなかなか縁が深い。たしかあれは2年前でございましたか、定額給付金のときに、テレビのインタビューで、そのときは知事でございますから、のインタビューで、対馬市の定額給付金の差し押さえについて、対馬市のその政策は愚作であるという一蹴を受けたわけでございます。それによって、いいか悪いか知りませんが、この対馬は全国の津々浦々まで名前が行き届いたわけでございます。

それについて、市長のほうが、私が前回の一般質問のときにそのお話をしたときに、大阪府の職員からメールをいただいたんだと。そして、その内容というのが、最高の施策ですという評価をいただいたんだということで胸を張っておられました、うぬぼれもそこまで来ると目を覆いたくなるような状況でございます。

そして、この財部市長の4年間、これをどう評価するか、私なりにこの愚直な頭でいろいろと考えてみたんですが、よく12月の中ほどに、皆さん御案内のとおり、京都の清水寺がございまして。あそこに畳一畳ぐらゐの用紙に貫主さんがその世相をうたった字を、大きい字で一筆書くんですね。もうしばらくしたら書かれると思うんですが、私、ああ、これだなと思ひまして、じゃこの4年間の財部市政の評価をどう考えるかということで、ない頭を絞りに絞って考えたんですが、漢字一字「無」です。私をはじめ、市民のたくさんの方々が大変な期待をしておられました。この4年間が無駄ではなかったのか、4年間の無駄の「無」、この一字に尽きるんじゃないかなと思ひますが、いかがでありますでしょうか。

それと、今回、財部市政の4年間を振り返るわけですけども、市民の方からもいろいろと意見をいただいております。何点か紹介をさせていただきたいと思ひますけども、これは、上の方なんですけどね、こう言っておられます。「4年前は財部市政誕生のために選挙活動などで力いっぱい頑張ったが、あれは一体何だったのか、仕事もないので島を出ようと思う、企業誘致もだめ

だったので」というふうな話もお聞きしました。

そして次の方、これは下の方でございますが、これは1回紹介した人でもございます。「市長、副市長、すべて役場上がり、仲よしクラブ、市政の改革を期待していたが、残念でなりません。期待した私が間違っていました」というふうな声もいただいております。

そして、3人目ですけどね、これも下の方でございます。「財部市政は一体何だったのか、財政が苦しいと言いながら、職員給与カットを取りやめた、市職員のための市政だったのか」と、非常に厳しい意見もいただいております。

これが最後ですけども、これも下の方でございます。「対馬の中心は、宗家時代から府中厳原の町だった。なぜ新病院が美津島町なのか、どう考えても納得がいかない。それが4年間の成果なのか」というふうな意見もいただいております。

では、さきに通告しておりました2点について、まず1点が選挙公約について、そして2点目が、東日本大震災の復興支援について、この2点について市政一般質問をさせていただきます。

まず、この選挙公約でございますが、確かに4年ほど前のときには、あれもやりますよ、これもやりますよと、私に任せてくださいというふうな声を聞きました。特に市民が期待しておりましたこの企業誘致、これについては市長さんは当初、100人規模とかそういうものよりも、やはり第1次産業に根をおろした農林水産業の関係の企業の誘致と、10人でもいいじゃないか、20人でもいいじゃないかと、そういう小さい規模の誘致をやるというふうなお話もしておりましたが、実際この時期に及んで企業誘致はされてないわけでございますから、さきの議会のと きにも、市長さんのほうからは、公約違反だというふうな、企業誘致についてはそういうふうな話もされました。ただそれだけで終わっていいのか、どう考えておるのかというのがまず第1点のことです。

そして2点目が、東日本大震災の復興支援についてでございますが、私どもの会派で10月の中旬ごろでした、岩手県の陸前高田市、それと大船渡市を見てまいりました。私どもが見る被災地というのは、いつもテレビで小さい画面でしか見れないわけですが、しかし、現地に行くとすごいですよ。これは行ってみらんとわからんとですけども、海岸べたから、特に高田市なんかは海岸べたから山のすそまで、当時はいっぱい家があったそうです。それが何もないんですよ。あるのは、建物の基礎と、そして、えぐりかえった道路だけなんです。これだけは実際に見てみないとわかりません、映像だけでは。私もそこに参ったんですが、そこに行ったときに、ああ、対馬市としても何かできることがあるんじゃないかと、何かしなければならぬというふうな感覚にすべての方がなると思います。そして今回は予算といいますか、国のほうが国家公務員の給与を7.8%カットして約3,000億、これを2年間やろうということで、今まだ決定はしておりませんが、今国会のほうで審議中でございます。

ならば、よく事業でもそうですし、国に従うのが各市町村でございますので、これは国のほうに従って7.8%カットをして、そして、あの悲惨な被災を受けた、本当にすごいあの町に支援として行うことができるんじゃないかと。既に職員の5%カットも終わっておるわけでございますから、せめて1年でもいいじゃないですか、そのカットした分を被災地の市町村に支援としてやるべきだと思いますが、いかがでありますでしょうか、その2点を。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小宮議員の御質問に答えさせていただきます。

前半、欧州情勢から始まって、倒産間近の国が生まれ、首脳の方々が辞職に追い込まれているというお話がありました。

倒産させてはいけないという思いでこの3年半を私自身過ごしてきたつもりであります。そういう中、借金まみれの市政を、この体質を改善しなくてはいけないということを私は公約の1番にかざしていたつもりです。もう小宮議員は捨ててあるかもしれませんが、このてのやつでございませう。これで借金体質からの改善ということを大きく打ち出しております。財政の改革に取り組まなくては対馬はいけませんというようなことを言ってきました。企業誘致、これについても、この中には書いております。今、小宮議員がおっしゃられたような方向性の中で小規模の企業誘致を行っていきたいというようなことで、私どもも担当職員も一生懸命動いてきたところであります。

しかし、現下の経済情勢の中でそれがままたまならなかった、その経済の見通しについて、私は自分の勉強不足、予見できなかったことについては、市民の皆さんに謝らなくてはならないというふうな趣旨の発言をさせていただいたところであります。

ただ謝るだけでよいのかというふうな意味もありましたが、その点に関しましては、世界中の経済学者も、このような状況に世界中が陥ることが予見できなかったこともあるわけですし、予見できなかった私を責められる分は一向に構いませんけれども、私を含め、皆さん、それは同じじゃないかというふうに思っております。

また、この4年間で「無」だというふうにおっしゃられました。清水寺の貫主が「無」を書くだらうというふうな趣旨のことではございましたが、大変ありがたい言葉だと私は思います。無の境地になって、立って物事をきちんと組み立てていくことがすごく大切なんではないかというふうに思います。私がこれから先、市政をあげる上においても、そのことを肝に銘じていきたいというふうに思います。

また、2点目の国家公務員が7.8%の給与の削減をしようとしている。今の新聞報道では、恐らくこの臨時国会ではならんだらうというふうな評論も出ております。そのときは人事院勧告のほうを国家公務員は上げていません。マイナスの人事院勧告は上げず、またマイナス7.8%

この削減案も通らないということになったとき、地方公務員だけが人事院勧告でマイナスになるというふうなことが起こるわけです。今の臨時国会の状況というのを大変私は興味深く今見ているところです。もしそのようなことが起こった場合、私どもも市長会として、国に対してきちんと物を申す用意があります。

また、国同様、7.8%仮にそういう率で自治体も削減をし、それをあの悲惨な被災地の復興支援に充てるべきではないかというふうな御質問ですが、これにつきましては、5月以降、私どもの職員も事務職の人も、そして今、技術職の人も、そして保健師の人も、計たしか32名だったと思いますが、あの場所に行って業務をこなしております。技術職の職員に至っては、2カ月という長丁場の業務を請け負っております。また、1月以降もその業務に別の人が携わる予定です。ほかの市町村、長崎県の中でもすべてが行っているわけではありません。私ども対馬市は、この人を送り出すこと、これについてはしっかり取り組んでいこうということで、途切れることなく対馬市民のあの場所に対する思いを届けるためにも、この業務を職員みんなで頑張っって補いながらやっていこうじゃないかということで取り組んでおるところです。

7.8%の国家公務員の削減という、これはあくまでも復興予算を捻出するために苦肉の策として打ち出されたものであります。片や協約締結権を剥奪された公務員が、人事院勧告というものがあながら、それをのまず7.8に走り、それがもしこの臨時国会で流れるということになったとき、それはすべてを否定したことになるのではないかというふうな、9日までの会期末の状況をきちんと見てから、こちらも物を申していきたいというふうに思っております。

あの場所の被災状況というのは、私を含め、職員も、先ほど言いました32名のほかに、住民の方も自分で足を運んで報告をいただいております。みんながあの地をどうかしてあげたいという思いは持っております。今、私どもにやれることは、人を派遣して、そして声をかけ、そしてあの地に活力を与えるために人を送り込むことだと思います。金を送り込んで、なかなか使う場所さえもないようなことです。公共事業に関しましては、国がしっかりと十何兆円という予算の中で組み立てをするということになっております。そのまたしわ寄せというのは、当然あの土地以外の日本中にそれはあります。私どもの通常の公共事業に関しましても、そのしわ寄せで減があります。そういうことで痛み分けをしているというふうな御理解もいただきたいなと思っております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） では、この第1点の選挙公約から行きたいと思うんですが、市長が就任したときの6月議会に、私が放射能の問題、俗にNUMOなんですが、この問題でお尋ねをしたときに、こんなふうに答えておられるんですよ。原子力利用計画もしくは原発設置の時

点で、破棄処分があわせて論議をされていないと、もしくは国民に知らせてなかったことについて、私は国策として間違っているのではないかというふうな質問をされておられます。なぜこれを言うかと言いますと、その選挙の公約の、小さい企業の誘致を口にするということは、ある程度の計画的なものがなければ人は口にしないわけですから、その計画的なものはあったのかなかったのか。ただ抽象的な表現に終わったのか、それを公約としたのか、それはどうなんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私はそのときは新人の候補であります。そのような当てがあったのかというふうなお話ですが、当然私では持ち合わせてはおりませんでした。

だから、対馬が生き残っていくため、この対馬の資源を有効に活用しながら、後で対馬の人が誘致企業が撤退した仮に後にでも技術が残る方法としては、この農林水産業による企業誘致、小規模な企業誘致が必要だという思いで、それについては資源が豊富にありますから、対馬は、だから誘致は可能だというふうな見通しで私は公約の中に挙げさせていただいた次第です。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） じゃそのときはその具体的なものはなかったということですよ、（「企業はですね」と呼ぶ者あり）企業はですね。

しかし、就任した当初、これによると、原子の火がついたときに、既にその処分も考えておかなければならないということは、今の発言と矛盾するんですが、公約というのは、やはりある程度の具体性がある初めて公約として生きてくるわけですよ。それが公約なんですよ。

そういった意味からすると、当初からそういう具体性はなかったのに公約をしたということは、市民を欺く行為になるんじゃないんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） では、逆にお聞きしたいのですが、先ほどから。（「議長、私が質問者ですよ」と呼ぶ者あり）私が私に対しておっしゃってあります前大阪府知事の大阪都構想、細部にわたるまでの組み立てを読まれたことはありますか。私はないと思っております。（「議長、私が質問者です」と呼ぶ者あり）そういう意味において、一つの方向性を打ち出す、そして、それに向かって走り出すことを公約として挙げることは何ら問題はないと思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 議長、私が質問者ですからね、反問権は与えてないんですよ。そうすると、ただの雑談になってしまうじゃないですか。その辺はよく注意してくださいよ。注意してください、先に。

○議長（作元 義文君） はい。答弁は、答えを出して答弁してください。10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） では、お聞きしますがね、この企業誘致にかかった今までの経

費、これはどのくらいあるんですかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） そのあたりの金額につきましては、担当のほうから答えさせます。

○議長（作元 義文君） 政策補佐官、松原敬行君。

○政策補佐官（松原 敬行君） 市長が就任されました20年度から本年度、23年まだ年度途中でございますけども、約890万ぐらい、主として旅費でございますけども、経費を使っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 890万も使ったんですね。それで成果がなかなか見えなかったわけですね。すごいですよ、890万と言えば。

それと、ちょっとお尋ねしますが、この対馬市というのは、登記簿上は法人なんですけれども、市長というのは、法人格の最高経営責任者、俗に言うCEOなんですけど、そういうふうな認識でよろしいんですか、先にそれを。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） オーナーという感覚は持っておりません。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 最高責任者であることは間違いありませんよね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 最後の意思決定をする立場にあることは、当然承知しております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） この責任者というのは、例えばこの企業誘致一つとってもそうですけども、まず、経営者としてやるべきことは、市場経済において、原理原則に基づいて、その本質をつかむのが責任者の務めなんです。

じゃお尋ねしますけれども、この企業誘致の原理原則は何をもって組み立てられたのか、それを一つ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 企業誘致の原理原則は何なのかと。当然、私どものこの対馬の中で雇用を創出するためのことであり、また対馬の中の資源というものが有効に活用されることを願って、そのような企業誘致を行っていくものというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） まず、先ほど私、どうして組み立てるのかということですけども、組み立てがなかったんでしょう。例えばですよ、さっき言われたように、経済の動向は見え

なかったんだと、それはそういうこともあるでしょう、こういう状況ですから。ただ、じゃ原理原則はどうか、企業誘致というのはどういう分野でやっていくのか、どの分野をどう攻めていくのか、そのためにはどういう組織でやっていくのかということが原理原則になるんですよ、企業誘致、何でもそうですけども。ということは、今のこのメンバーでこの企業誘致ができると最初から思ってたんですか、このメンバーで。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） このメンバーでということですが、どのメンバーかわかりませんが、今、私のこの近辺におります理事者と一緒にできるものというふうには思っていました。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 皆さん、副市長も含めてそうですが、もう全部役場上がりの方ばかりですよ。企業誘致は、やはり人と人との接点をたくさん持っていかなければいけないんですよ。ということは、私は、だれが見ても、やはり外部から新しい者を入れて、そしてその人に企業誘致ならそれを任せると、そういうふうにしなれば、ただ単に900万ほど使って、あっちに行ったりこっちに行ったり、そういうことじゃ企業誘致はできないんですよ。先ほど申しましたように、人と人とのつながりがまず企業の誘致なんですよ。

そういった意味では、このメンバーで、市民の方は思っていると思いますよ、企業誘致なんてできませんよ、そんなもん。外部から入れてやらんといかんと思うんですが。長崎県もそうですけど、金子知事的时候には、企業誘致とか、いろいろな分野を、推進本部長を3名外部から入れたりしとるんですよ。この長崎県がこういうふうにして外部から入れた者について、どのような評価をしておられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） まずもって、長崎県の評価は別としまして、外部の人というお話がございました。前任の市長におきまして、外部の人が入ってきたこともございますが、そのときもやはり実績というものは上がらなかったということもあります。

そういう意味において、今、私どもは島外の方々とさまざまなネットワークの中で物事を組み立てております。対馬出身者の方、そういう方との意見交換、情報交換もしております。ありとあらゆるネットワークを使いながらやっておるところであります。

次に、長崎県の外部の人を入れられたことにつきましては、私自身はお三方ですかね、お三方ですか、（「3人やね」と呼ぶ者あり）ですね、そのうちのお二人の方とはお会いし、話をさせていただいておりますけども、今までのノウハウを行政の中に落とし込むことに努力をされているというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。



○議員（10番 小宮 教義君） なぜ県がそうしたかと言うと、やはりそういう業界に通じる者、顔が広い者、そりゃ市長は広いでしょうけどね、津々浦々までわからん人間はおらんわけですから。やはり外部の者を入れて、そしてすると、それしか方法はないと思いますよ。それをしなかったわけですから、当初から外部の者を入れるということも考えなかったんですか、組織づくりの中で。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほどの答弁の中で申しましたように、外部の人を入れて二、三年間された対馬市も。ところが、実績が上がらなかったということ、事実もございます。そういうのを踏まえ、改めて物事の組み立てをしていく必要があると思って、今、私どもは取り組んでおるところです。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 基本的な考えは違うんでしょうけども、私はもう基本が間違っておると思いますよ。能力はそれぞれ個人差がありますけども、その分野分野で違うわけですから、そうしなかったのは一つの責任だと思いますけどね。だれが見てもできんと思いますよ、そんなものは。

それで、ちょっとお尋ねしますけども、この市長、4年間で退職金をいただくんでしょうけども、これはどのぐらいの退職金があるんですかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 退職金のことについては、私自身は幾らかもらえるんだろうと思いますが、計算したこともありません。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 退職金は1,728万もあるんですよ。1,728万、約2,000万もあるんですよ、たった4年間で。普通の企業なんかは、倒産、倒産でほとんどもらえん状態なんですけどね。そして、この隣の壱岐市なんですけど、壱岐市は、市長はこの退職金も50%カットですよ。

それで、企業誘致という基本的なことはできなかったけども、その経過の中で組織の編成もしなかった、そういうことを考えると、この壱岐市みたいに、何ぼもらえるかわからんというお金なら、50%をカットして、その誠意を示したらどうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 恐らく条例、あれは長崎市町村退職手当組合でしたか、向こうの規約ですよ。ですから、その規約改正というのが必要になってくるんじゃないかと思いますが、それ以外であれば、もし仮に50%カットとなった場合、規約改正ができない場合は、今度は私が公

職選挙法違反で捕まることになるのではないかと思います。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） ああ、じゃ公職選挙法に触れなければカットを考えてもいいということですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 規約改正がまず必要なんではないんでしょうか、退手組合の。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） その改正ができれば50%カットもやぶさかじゃないということなんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 退手組合の規約がそうなれば、当然支給は半分になるというふうなことだと思います。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 私が知り得ている範囲内では、この50%カットも専決処分のできる範囲だと思いますよ。専決がうまいんですから。専決のプロならば、その辺もよくできるんですよ、専決は何でもできるんですよ。できるんですよ。自分の退職金を50%カットすればいいわけですから、その改正を自分で出して、そして専決すればいいじゃないですか。そういうこともあるんですが、とりあえず、時間がありませんけども、もしそういうことができるのであれば検討してくださいよ。そして、ぱっと専決をして、気持ちよく、お願いしたいと思います。

それと、東日本大震災の話なんですが、市長も現地を見られて、本当に皆さんびっくりするんですけどね、もう言葉にならないぐらいなんですよ。

それで、先ほどの話ですと、今、国会に上がるとるんだと、カットの分がですね。今議会ではちょっと難しいという状況です。でも、また新たな議会で上げるわけですし、もしかしたら継続審査となる形にもなるかもしれません。

それで、これがもし国会で通ったときには、その状況を見ながらという御説明ですけども、通ったときには国に沿って7.8%のカットをする考えはあるんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 国は、自分たちの財源を見つけ出すために国家公務員に7.8の削減を求めているわけですし、地方自治体は、その前に私どもにおきましては、あれは19年度からでしたか、19、20、21と総額6億恐らく8,000万ぐらいの削減をしてきたところであります。その間、国は全くそのようなことはありませんでした。人勧どおりにやっています。

そういう意味において、今この時期に国に追随する必要は私はないと思っておりますし、人勧

を国は選んでおりません、今回は、私どもは人勸を選んでおります。そちらで物事を考えていくべきだと思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） そういう考えなら仕方ないですね。

それで、先ほどの壇上でこの市の苦しい財政という話がありました、ここに、これはことしの3月に策定したもんなんです、対馬市中期財政計画というのがございます。ことしの3月の作成ですよ。この中に今後の財政を詳しくうたっておるんですが、これは27年度までの計画です。それによると、私どもが一番懸念とするのは、やはりこの実質公債費比率、これがネックになるわけですが、御案内のとおり18%を超えると指定団体になって、なかなか借金ができない、お金を貸していただけわけですが、それが18%ラインです。

それで、この27年度を見ますと、これは3年間を一つの対比としておる分と、その年の実質的な数値ですね、それを見ますと、27年度は実質公債費比率が、これは3年間平均ですが17.4、そして単年度、その年の分を計算すると17.9なんです。実質的には17.96ぐらいあるんですが、これからすると、27年度から非常に厳しくなるんですよ。そして一番懸念とするのは、この厳原の病院の建設もございます。また11億の借金もしなければいけません。それと合併特例債関係はまだ残っております。そうこうすると、約また60億かそこら起債がふえてくるわけですよ。その分、減る分もございますが、こういう厳しい状況の中、27年度以降は指定団体になるんじゃないんですか。いつぞや前回のとき私が説明しましたが、もう既に30年度は18.56になるんですよ。そして、このような病院建設、過疎債発行もあります。そして合併特例債を入れていくと、既に早い段階でマイナスになっていくんじゃないんですか、18を上回るんじゃないんですかね、その辺の財政的な見通しはどうなんですか。

○議長（作元 義文君） 総務部長、平山秀樹君。

○総務部長（平山 秀樹君） 23年、今年の3月に23年度から27年度までの5カ年の中期財政計画を作成をいたしております。

今の小宮議員さんの指摘のとおりでありまして、27年度の単年度の公債費比率が17.9の予定をいたしております。

現在の国の交付税の状況等を勘案をいたしまして、26年度からは、25年度までの合併特例の交付税等も徐々に減額になっていくと、そういった中で一番厳しい状況の中でこの計画の27年度を作成をいたしております。その中で今後の財政運営と課題ということで、税収、不要財産の売却、ふるさと納税制度の活用といった歳入面からの財源確保、また歳出面では、第2次の行革大綱による歳出削減、定員適正化計画等をさらに推し進めていくことによって、この数値は改善をされるというふうに考えております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） この27年度の数字は改善されんと思いますよ。というのは、この26年度からどんどん悪くなって数字が上がっていくわけですから、だから、3年度平均も自然と上がるんですよ。上がるんです、これは。この前も言ったように、税収もかなり減ってきていますから、本当厳しい状態になるんですよ。そこで言わんとすることは、その7.8%のカットが無理なら、この前5%のカットを取りやめたじゃないですか。その取りやめた理由というのは、これは22年3月の9日の分なんですけど、このような議案説明していますよ。給与削減については、所定の目的を達成したと。繰上償還があらかた終わったと、だから5%のカットはやめたというふうな議案の説明内容でございましたね。

じゃこの繰上償還はもう既に終わってしまったんですか。

○議長（作元 義文君） 総務部長、平山秀樹君。

○総務部長（平山 秀樹君） 繰上償還にも限度がありまして、政府資金等の繰上償還については、償還できるものについてはすべて繰上償還をいたしております。民間資金の縁故債につきましても、今年度補正でお願いいたしましたように、金融機関と協議をしながら最大限の繰上償還をしてきたつもりであります。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 公的資金は、先ほどあったように、その5%のところは全部終わったんでしょが、さっき言われたように、十八銀行をはじめ、親和銀行から、俗に縁故債ですけども、この借金が145億もあるんですよ、一般の銀行から借りておるのが。金利だけでも2億円ちょっと払いよるんですよ。済みません、1億6,000万ぐらい、約2億円金利を払いよるんですよ。ならば、こういう厳しい状況の中で、27年度以降の計算が難しいならば、この繰上償還はできるわけですから、縁故債は145億。今年度この予算にも繰上償還は約3億ありますが、その前のときにもしていますよね、縁故債の繰り上げを。先にそれをやるために、再度また5%、議会も含めてそうになっていいと思いますけども、そうやらんと、後々がもたんこととなりますよ、早いうちに手を打たんと。どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど総務部長が言いましたように、この縁故債については、民間金融機関と協議をしております。私どもが出せる範囲もありますし、向こうが繰上償還を認めていただく範囲もございます。そのあたりをずっと詰めながら、その話がついたときに補正等に予算化させていただいている次第であります。

私どもも今、縁故債が100億を超えてあるというのは十分に認識をしております。これしか返せない、まずは、ということも十分に認識をしております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） この145億の縁故債は、国の資金と違って、厳しい取り決めというのではないんですよ。言われる合意というのは必要かもしれないが、ことしも3億返すわけですから、返す予定は立つわけですから、3億ということは、5%カットすれば2.4億ぐらいお金が拠出できるわけですから、そういうところからまずやっていって財政の安定を図らんと、後々は大変なことになるんですよ。その辺はどう考えますか。市長でいいですよ、もう部長はいいです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この公債費がここまで対馬市が抱え込んだ部分については、市全体の責任だというふうに私は思っております。

そういう意味において、職員がすべてその責任を負うものでもなく、みんなで分かち合わなければいけない問題だと思っております。

そういう意味において、職員が6億8,000万円の削減、そこまでをのんでいただいたということ、それ以上ずっとこれをやっていくということは、職員だけを一方的に責任を転嫁するという問題でもなかろうと思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 最後、この対馬で一番大きい企業は、対馬市なんですよ。安定しとるわけですから、首になることもないし、土日は休みじゃないですか。市民のために頑張っておられるんですから、やはり縁故債でも「転ばぬ先の杖」で、段取りを立てて借金は返すと、返せるのは生活が安定している公務員ですよ。だから、また5%をカットして、そして27年度以降の厳しい状況の中に対処するようにお願いをして、終わります。

○議長（作元 義文君） これで、10番、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。2時5分から開会します。

午後1時51分休憩

午後2時05分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、6番、松本曆幸君。

○議員（6番 松本 曆幸君） 新生クラブの松本曆幸です。どうぞよろしくおんいをいたしたいと思ひます。本日、大まかに3点についてお尋ねをいたしたいと思ひますので、明快な回答をおんひしたいと思ひます。